漢方●コム

一般社団法人漢方ドットコム会報誌

漢方ドットコム通信

私たちは「漢方で健康になる」お手伝いをしています。

特集 1

免疫力と漢方がん治療 P.2～P.4

医療現場が逼迫している状況で、がん治療に漢方が注目されている理由

新型コロナ時代の今、がん治療最前線で見えてきた免疫力と漢方

新型コロナ感染症は、基礎疾患のある人や免疫力の低い人がかかりやすいとされています。特にがん患者の人は、抗がん剤や放射線治療でがん細胞と同時に正常細胞（免疫細胞）が破壊され、免疫力が低下しているので、最大限の注意が必要です。がん治療においても同様で、免疫力を調整し、高めることで、免疫細胞を活性化させて、がん細胞を殺傷して、副作用を軽減することができるのです。

がん治療において、免疫力が注目されているのは、漢方のもつ「免疫賦活作用」です。漢方によるがん治療は、身体全体から免疫力を調整し、高めることで、がんを改善する治療法です。健康な人が本来持っている免疫力（自己治癒力）を生かす治療法として、長い実績があります。今、新型コロナ感染症で免疫力が注目されていますが、がん治療においても免疫力を生かす治療法として、医療現場で取り入られているのです。

特集 2

私のがん闘病体験記 P.5～P.7

私たち一般社団法人漢方ドットコムには、会員様からがん闘病体験が寄せられています。そこで今回は、「漢方」を選択され、抗がん漢方の天仙液との出会いで、「がんが寛解した」「がんを克服した」という方々から頂いた「私のがん闘病体験」を報告します。

※体験談は、ご本人の実際の感想であり、天仙液の効能・効果を示すものではありません。

［胃がん・甲状腺がん］上伊澤 洋さん（82 歳・北海道）

転移・再発を繰り返した苦しいがんとの闘い……
天仙液との出会いは強く新しい伴侶との出会い。

［膵臓がん］榎田　富美代さん（59 歳・鹿児島県）

末期で手術が出来ないと診断された膵頭がん……
絶望の淵から救ってくれた天仙液に感謝。

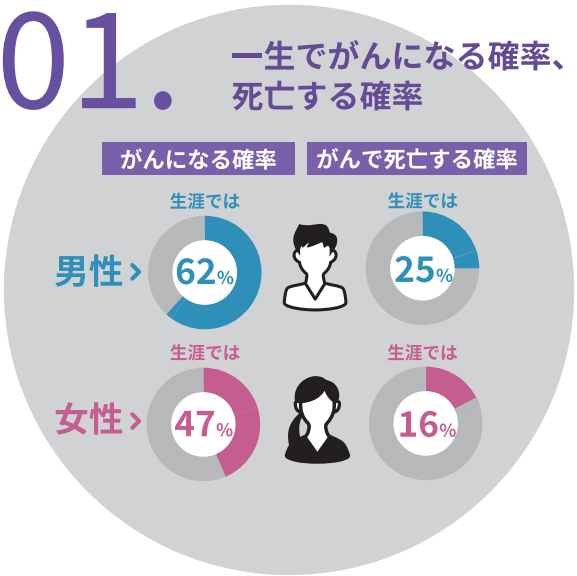
［食道がん］森下さん（72 歳・岐阜県）

頭頸部食道がんで声帯も切除という治療方針……
でも、化学療法と天仙液の併用治療で克服。

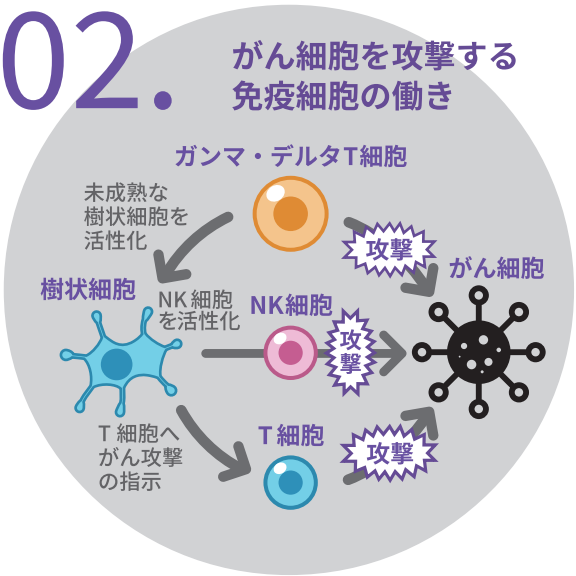
がんと免疫力の働き

免疫力はがん治療にどのように働くのでしょうか！？

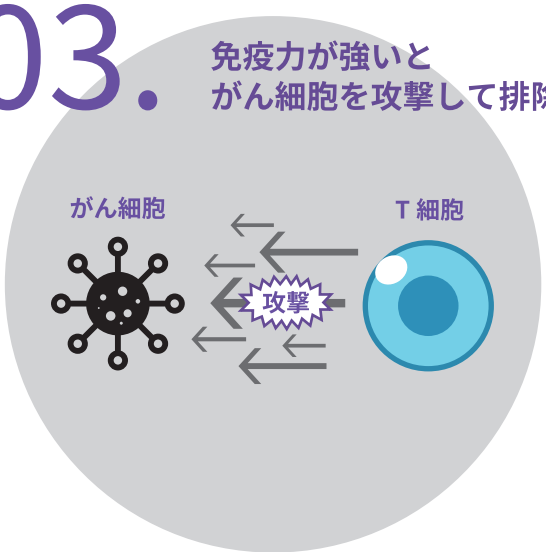
01. 一生でがんになる確率、死亡する確率



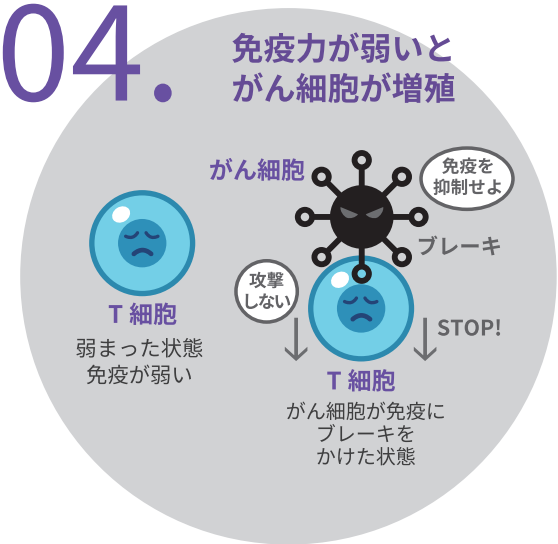
02. がん細胞を攻撃する免疫細胞の働き



03. 免疫力が強いとがん細胞を攻撃して排除



04. 免疫力が弱いとがん細胞が増殖



免疫細胞（T細胞）は、がん細胞を攻撃して排除する働き

◆一生のうち２人に１人ががんになる時代

日本人の死因の第１位はがんで、１年間でなんと37 万人以上の人がなくなっています。ところが、実際にがんになってしまった人は一様に、「なんで私が……」と驚きます。

でも現在、私たちの一生のうち、２人に１人が何らかのがんに罹患するとされています。がんは全ての人にとって、身近な病気となる時代なのです。

では、２人に１人のがんになる人とならない人がいるわけですが、どうしたら「がんにならない１人」になれるのでしょうか――。実は、そこには「免疫力」と深い関係があることがわかったのです。（図 01. 参照）

◆がんになる人とならない人の分かれ道は免疫力

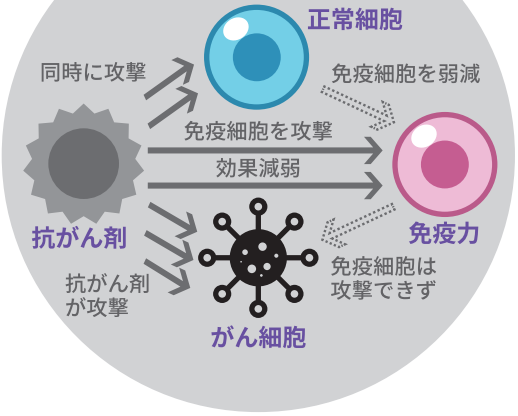
がん発生の要因は、体内にある細胞が突然変異でがん化して、がん病になるといわれています。私たちの身体の中では毎日、新しい正常細胞と同時にがん細胞が生まれているのです。それでも、がんにならない理由は「免疫力」によるものです。

発生したがん細胞は、免疫力によってがん細胞を攻撃して排除します。免疫力とは正常細胞の免疫細胞という血液中にあるＮＫ細胞やＴ細胞などの働きのことです（図 02. 参照）。免疫力（免疫細胞）が強ければがん細胞を攻撃して排除しますが、弱ければ増殖してしまいます。（図 03. 04. 参照）。がんになる人とならない人の分かれ道で、「免疫力」が大きく働いています。

副作用と免疫力の働き

抗がん剤はどうして副作用が生じるのでしょうか！?

01. 抗がん剤はがん細胞と正常細胞を殺傷



02. 免疫力がの低下でがんなどの病気を発症

03. 免疫力を低下させる原因

04. 日常生活で免疫力を高める方法

がん闘病で苦しむ副作用を軽減するのは免疫力の働き

◆抗がん剤はがん細胞と一緒に正常細胞を殺傷

がん患者の人たちは、手術、抗がん剤、放射線などの治療による副作用で苦しみます。抗がん剤で副作用が生じる原因は、「がん細胞と一緒に正常細胞（免疫細胞）も殺傷してしまう」ことです。免疫力の低下とともに、白血球や血小板の減少、貧血、食欲不振、下痢、便秘、嘔吐、脱毛や倦怠感、激しい痛みなどの副作用が生じます。（図 01. 参照）

「免疫」とは、「自己防衛システム」です。例えば、体内に発生したがん細胞や侵入してきたウィルス、病原菌などを監視し、攻撃して、健康体を維持する働きをします。がん細胞が体内に生じた場合、免疫力が強いほど、がん細胞を抑制・殺傷し、副作用を軽減させ、増殖や転移のリスクを低くすることができるのです。がん治療にとって、免疫力がいかに重要かが分かります。（図 02. 参照）

◆免疫力を低下させる原因と高める方法

免疫力を下げる原因は、私たちの日常生活にもいろいろあります。免疫力が低下すれば、がんをはじめとする病気や症状にかかりやすくなります。免疫力を低下させる原因に注意して、がんなどの病気を予防したり、治していきたいものです。（図 03. 参照）

免疫力を高める方法は、日常生活のなかでいろいろあります。身体の防衛システムである免疫力をアップさせる基本は、規則正しい生活をすることです。そして、疲労の蓄積や暴飲暴食などの食生活での栄養不足、睡眠不足、運動不足、ストレスなどを解消することが大切です。なかでも、ストレスはがんを誘発する要因ともいわれていますので、適度に発散するように心がけましょう。（図 04. 参照）

漢方がん治療と免疫力の働き

今、医療現場で漢方がん治療が注目されている理由とは！？

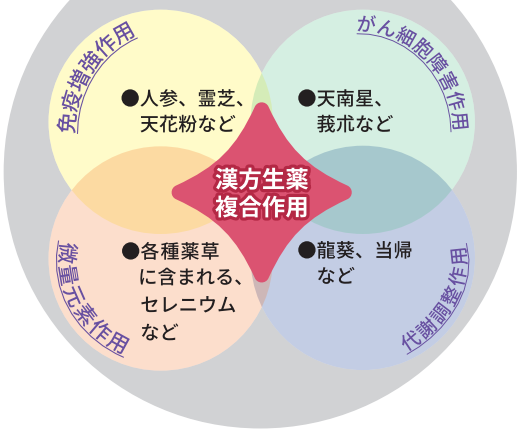
01. 西洋医療と漢方医療の違い

西洋医療は局所を診る――科学的で攻撃的な治療
漢方医療は全体を診る――免疫力を高めて治療

漢方医療	西洋医療
患者さんの体力や病状を総合的にみて、それらに応じた最善の治療を行う	患者さんの臓器、細胞、たんぱく質、遺伝子レベルまで、より細かくみていく
全体を診る 体全体のエネルギーを高め、人間がもっている免疫力や自然治癒力を高める	局部で診る 内臓のどこに異常があるかを見つけ出す
漢方医療では がん症の治療と免疫力の強化	西洋医療では 正確な診断と攻撃的治療

02. 漢方がん治療による目的と働き

03. 漢方生薬の複合作用による抗がん漢方薬の働き



◆身体全体から免疫力を調整し、高める漢方がん治療の働き

◆西洋医療は局所を診て、漢方医療は全体を診る

がん治療において、西洋医療と漢方医療には、考え方や方法に違いがあります。がん細胞を部位ごとに直接攻撃するのが西洋医療で、免疫細胞を強化することで、がんを改善するのが漢方医療です。つまり、西洋医療は臓器やがん細胞など局所を診るのに対して、漢方医療は身体全体を診て、免疫細胞の機能を調整して高め、人が本来もっている自己治癒力（免疫力）を引き出しながら、がんを改善していきます。（図 01. 参照）」

◆医療現場で漢方がん治療が実践されている理由

漢方によるがん治療は、補完代替医療としてアメリカ国立がん研究所（NCI）でも評価されています。日本の医療現場でも実践されており、その理由は次の３つに集約されているようです。（図 02. 参照）

１．進行がん、末期がんに対する補完代替療法

２．抗がん剤、放射線治療による副作用の軽減と転移・再発の予防

３．免疫力を向上させ、ＱＯＬ（生活の質）を保ちながら闘病生活

◆漢方生薬の複合作用による抗がん漢方薬

漢方がん治療は、多種の生薬を配合、処方した漢方薬の複合作用によって、身体全体の免疫力を調整して高め、がんを改善していく治療方法です。20 種類以上の生薬を配合、処方された漢方薬が、「天仙液」という抗がん漢方薬（医薬品）です。天仙液は、複合作用によって相乗効果を高め、①がん細胞障害作用　②代謝調整作用　③免疫増強作用　④微量元素作用がある複合漢方薬です。（図 03. 参照）

抗がん漢方薬の「天仙液」は、免疫力を調整し、高める作用があることが、アメリカ国立がん研究所（NCI）の公式サイトに掲載され、注目されています。天仙液は抗がん漢方薬として 31 年の実績があり、世界 20 ヵ国以上、100 万人に使用され続けています。

特集 2

私のがん闘病体験記

my experience of fighting cancer

病　名：胃がん・甲状腺がん
体験者：上伊澤　洋さん（82 歳・北海道在住）

転移、再発を繰り返した苦しいがんとの闘い……
天仙液との出会いは強く新しい伴侶との出会い。

がんを発症してから７年――。上伊澤さんの 70 歳代前半は、まさにがんとの闘いの日々だったといいます。2014 年 11 月の定期検査で胃がんが見つかり、ステージ２Ｂと診断され、同時に甲状腺がんも発見されました。腹腔鏡手術で胃の４分の３を切除、手術中にリンパ５カ所に転移が確認され除去。他にも臓器への転移の恐れがあるために、翌年の１月に退院後、抗がん剤ＴＳ－１の服用が始まりました、それからが、抗がん剤、放射線治療による副作用の苦しみ、転移、再発を繰り返すという「闘病病体験」が始まったのでした――。

がんでは死にたくない！！　寿命で死にたい！

胃がんの治療が一応終わったことから 2015 年 12 月に甲状腺の全摘手術を受けた。手術後、リンパにも転移していて、取り残しがあるので、放射ヨード内照射治療を受けるように医師にすすめられた。2016 年３月末に、入院治療が始まった。甲状腺細胞にはヨウ素を取り込む性質があるため、放射ヨウ素（福島原発事故の放射能と同じ放射能）のカプセルを飲み、甲状腺に取り込ませて細胞の内部から破壊するといったもので、入院の３週間前からヨウ素制限食を始め、２週間前からは甲状腺ホルモン剤も中断して取り残しの細胞を腹ペコ状態にしてから放射ヨウ素を飲んだ。尿などから放射線が排出されて線量が容認範囲に戻るまで、隔離室に隔離される治療でかなりのダメージをうけた。

甲状腺の治療を受けて退院して間もなく、胃カメラの検査で胃に新しいポリープがあり、慎重に経過観察をしようと告げられ、再発の不安が頭から離れなくなった。そうしたストレスからか、不眠になった。

そんな時に、インターネットで抗がん漢方薬を検索していて偶然に天仙液の事を知り、さっそく案内書を送ってもらった。案内書に同封されていた本『がんを治す新漢方療法』を熟読した。天仙液の他の本も３冊取り寄せて何度も読んだ。王振国先生、帯津良一先生の患者に寄り添う崇高な姿勢に感銘した、関根進さんの体験談は説得力があったのか“悔しい思い”が去来した。見放されたがん患者も救う道があったのだ、目からうろこの感じだった。

天仙液の事を早く知っていたなら、抗がん剤の副作用で苦しみ、放射ヨウ素を飲んで苦しみ、ＱＯＬを著しく損なわずにすんでいたのではと思った。複合抗がん漢方の「天仙液」にたどり着くまで、僕の２つのがんとの闘いは再発、転移におびえ、副作用のないがんを克服する実績のある抗がん剤を探し求めて、暗闇を漂流しているような日々であったと思う。

胃も甲状腺も、再発転移の恐れはなくなっていない。でも、一応山場を越えた状態でもあり、天仙液は決まりよく 2016 年の５月１日から飲みはじめることにした。会社を経営していた 42 歳の時、カナダに渡りログハウスつくりを体験して４７歳から米松を買い入れ、オホーツク海サロマ湖畔に１人で５年かけてログハウスを立ち上げた。そこで家族と離れて一人暮らしを始めてから 20 年間、児童文学や小説を執筆し商業出版し、ネイチャークラフト、ステンドグラス制作などの創作活動で生きてきたが、がんの手術以来、信頼できる天仙液と出会い、再びログハウスでの生活に戻ろうと決心した。

自から建てたログハウスで元気に
創作活動を続けている。

５月１日、ログハウスでの一人暮らしを始め、その夜に天仙液を初めて口にした。刺激的な味がしたが、不快ではなく美味しくも感じられた。５月５日まで説明書に従って１日 10ｃｃを飲んだ。６日からは夜９時、朝９時に 10ｃｃ、１日 20ｃｃ飲んでいる。

天仙液は再発予防と健康維持の常備薬

飲む前から効果は信じていたが、それは期待以上だった。最初の夜から睡眠薬なしで眠れた。数日すると手足の痺れが薄れていった。あごの筋肉が痛くて物を噛むのがつらかったのだが、その違和感が消えているのに気付いた。起きてからの貧血症状も気にならなくなり食欲も出て、日々快便になった。なんと体重を量ってみると手術前の体重に戻ろうとしている。天仙液に期待したことは、抗がん作用はもとより体質の改善だった。この薬なら間違いなく健康維持につながると思ったのだ。食生活にも気を付けて関根進さんが続けていたというＳＯＤ様食品を取り寄せて毎食後に飲んでいる。

がんを発症してから７年を経た現在、80 歳を超えたが、元気に生活をしている。天仙液は、がん再発防止のためではあるが、健康維持の“常備薬”のような存在になっている。老いは確実に近づいているが、死ぬときは寿命で死にたい。がんでは死にたくない。探し求めた漢方薬の天仙液との出会いは、私にとって心強く新しい伴侶との出会いのように思っている。

特集 2

私のがん闘病体験記

my experience of fighting cancer

病　名：膵臓がん（膵頭がん）ステージ４
体験者：榎田 富美代さん（59 歳・鹿児島県在住）
報告者：姉・築志津代さん

末期がんで手術が出来ないと診断された膵頭がん……絶望の淵から救ってくれた天仙液に感謝。

９年前の 2012 年５月、膵頭がんステージ４と診断された榎田さんは、死を覚悟したとのことです。でも、がん宣告を受けた数日後に叔母から「天仙液という漢方があるから、試してみない？」と連絡があり、助かるのであればとの一心で、天仙液を飲むことにしたのです。入院後は抗がん剤ＴＳ－１、放射線治療と天仙液の併用で、なんと３ヵ月で６ｃｍほどあったがんが２㎝に縮小していたのです。「今後の経過で手術が可能」との診断でした。その回復力の早さは抗がん漢方のおかげだと確信しているとの、姉からの報告です――。

化学療法と天仙液の併用で末期がんから生還！

私の妹は５０歳になった節目だからと、2012 年の５月の初めに気軽な気持ちで健康診断を受けたのです。その結果、なんと「膵頭がんのステージ４で手術不能です」と医師から宣告されたとの報告を受け、私たち家族全員、悲しみと生命の儚さを感じて、絶望の淵に陥り、妹のがんという病気を受け入れることができなかったのです……。何故なら、２年前に母をがんで亡くしたばかりで、悲しみが癒えぬまま、今度は妹の診断を知る羽目になるなんて……。

でも、がん宣告を受けた数日後に、叔母が『インターネットで知ったけど、天仙液という漢方薬があるから、試してみないか？』との連絡が入り、妹が助かるのであればどんな事でも受け入れ、実行していこうと決心しました。救いたいとの思いから、“良いというものは何でも試そう”、“絶対に救うぞ” との信念で家族の絆が強くなったのです。

６月２３日、待ちに待った天仙液が送られてきて、飲んだ後、『身体全体に染み渡る感じだ』と嬉しそうに飲んでいる妹の顔には安堵の表情が見え、皆で嬉しさと安心感でホットしたひと時でした。５月から７月にかけて、４箇所の病院で検査入院し、ようやく８月に入り放射線（１日２回の計４０回終了）と抗がん剤のＴＳ－１（１日２回服用）の治療が開始され、ＴＳ－１は一旦８月 23 日で終了して、再度９月５日から２週服用、２週休薬という形で続行しました。

この治療の効果判定が、９月 26 日に出ました。ＣＴの検査が行われ市立病院で５ ×６ｃｍといわれたがんの大きさが２ｃｍに縮小し、今後の経過次第で手術も可能と言われたのです。ただ、「太い血管への浸潤はありますが…」という医師の言葉がありましたが、希望に繋がる効果だったので、がんの消失も近い感じがしています。天仙液を飲み続けて、１ヵ月そこらの治療での回復の早さは、私たち家族はもとより、妹も天仙液の力だと確信しています。家族にやっと笑顔が戻ってきました。この難治性のがんとどう戦い続けていくのか？　途方のない日々がこれからも続くと思いますが、天仙液とともに、今日一日を大事にして、希望を持ち生きていこうと妹と話しています。

◆その後のご様子を報告

定期検査で怪しい影があると診断され、平成２５年１月４日より２週間の検査入院で、ＣＴ、腹部エコー、ＭＲＩ、ＰＥＴ、超音波、内視鏡の検査を受けました。

難治性の末期がんを克服され、
孫を抱く幸せをかみしめる。

結果は、どの検査でもなんと１ｃｍにも満たないミリレベルかミクロレベルにまで小さくなっておりました。主治医の先生からは、「抗がん剤が効きましたね。画像には腫瘍が写っていませんが、小さくてもまだ芽があるので、この大きさならば手術出来ますよ。ただ、手術となると胆嚢を全摘し血管も２本ほど切ることになるので、10 時間程時間を要します」と天仙液を併用していた事を知らない主治医の先生より手術を勧められました。

発症してから９年、孫も生まれました

自宅に戻ってから、家族と親戚で話し合った結果、「ここまでこられたのは、天仙液のお蔭。抗がん剤だけだったら、どうなっていた事か……。「手術は延期か中止の方向にしよう。」と決めました。今後は通院で検査をする事になりますが、手術なしでの回復はありませんと先生に念を押されました。

抗がん剤治療中は１日に３本飲んでいた天仙液を、身体の様子をみながら１日に１本から２本飲み続けています。他に心がけている事としては、日常生活で身体を冷やさないよう、生姜をお料理やお茶にも使用して対策しております。ただ、消化管の手術を受けているので、消化液が少ないために、今も肝機能の数値は良くありませんが、毎日、元気に健康的に毎日を過ごしています。

発症してから９年を経た今も年に１度の定期検診は続けていますが、体調は良好で医療事務の仕事を続けています。あの頃学生だった子供たちも家庭を持つようになり、最近は孫を抱ける幸せをかみしめている毎日です。

特集 2

私のがん闘病体験記

my experience of fighting cancer

病　名：食道がん（頭頸部食道がん）
体験者：森下さん（72 歳・岐阜県）
報告者：妻・森下直子さん

頭頸部食道がんで声帯も切除という治療方針……でも、化学療法と天仙液との併用で克服。

年の瀬も迫った 2016 年のこと。ビールが喉を通らず吐いたり、肉の塊がつかえるなど、何度か飲み込む時に違和感を覚え始めた森下さんは、病院で検査を受けました。その結果、進行性食道がんステージ３で、しかも頭頸部食道がんという難しいがんなので、声帯も一緒に切除するという治療方針でした。それでも、声帯切除には反対して、抗がん剤でがんを縮小させて、放射線治療を行う選択をしました。抗がん剤と放射線の苦しい副作用に耐えられるかと思い悩んだが、抗がん漢方を併用した新たな治療法で闘病が始まったのです――。

「天仙液に賭けよう！」と夫婦で決心

がんと宣告された時は、ショックで目の前が真っ暗になりました。元気でバリバリと仕事をしていたので、まさか自分がと信じられなかったです。しかも難しい頭頸部食道がんで、声帯も切除すると診断されました。でも、手術はせずに抗がん剤で小さくしてから放射線という治療法を選びました。

抗がん剤は翌年、２月から７月まで４クールと放射線治療を３０回受ける治療方針となりました。声帯を切らずに化学療法が半年ほど続くわけですが、“副作用に耐えられるか”“本当に治すことができるのか”……と悩んでいる時に、妻の友人が「天仙液という漢方薬で治った人がいる」と、その資料を送ってくれたのです。インターネットと資料をしっかり読んで、「天仙液に賭けよう！」と思ったのです。

入院直後から、抗がん剤の点滴が外れると、天仙液Ｓを１日の最大量の４本飲んだのです。各クールが終了すると外泊できるので、入院時と同じように飲み続けました。そのお陰でしょうか、吐き気もなく、食欲も出てきました。抗がん剤４クールが終わった時の検査で、医師から「抗がん剤が効いたね」と診断されましたが、自分では心の中で「天仙液を飲み続けたおかげ！」と思いました。

実はその後、「自分はもう治った」と思って、天仙液をしばらく飲んでいませんでした。2019 年６月の定期検査で、リンパに転移が見つかったのです。そこで、すぐに天仙液と天仙丸５号を飲み始めて、内視鏡手術と抗がん剤治療を６日間で退院できました。今では、天仙液Ｓを１日１本から２本を飲んで、妻の作る野菜中心の食事（本来は野菜があまり好きでない）を中心にして、再び現場に出て仕事も頑張っています。

◆奥様（森下直子さん）の思いとその後を報告

あの日の衝撃は今でも忘れられません！ 2015 年 12 月 21 日、胃カメラの検査結果を聞きに行った主人の電話で、「ステージ３の進行性食道がん」と告げられ、目の前が真っ暗になりました。市民病院から県立病院へ紹介状を持っていつもの年なら新年への用意に忙しい時、検査、検査で病院通いが始まり辛かった事を思い出します。

検査の結果は、「がんが声帯の近くにあり声帯も切除！」ということでした。主人は「声帯を取るのはどうしてもイヤ！」と猛反対、セカンドオピニオンで、がんセンターへ行きました。しかし、がんセンターでもやはり同じ診断結果でした。

「あの日、がんと知らされた日の衝撃は忘れられません」

主人は声帯切除をしないという希望を告げ、「抗がん剤で腫瘍が縮小すれば放射線でいけます。抗がん剤の効果がなければ手術ですよ！」という方針になりました。その頃には、医療の仕事をしている友人から天仙液の資料も送ってきて、夫婦で天仙液に賭けようと決心していました。

天仙液との併用治療でがんが消滅

初めての抗がん剤点滴の頃は、吐き気で食欲もなく微熱もあり辛そうでした。でも、２クール・３クール…とすすむにつれて、天仙液も服用できていたので副作用もどんどんなくなり、元気になって私の気持ちも明るくなってきました。抗がん剤を４クールと放射線治療が終了した時の検査で、「がんが消えました」と医師から告げられた日は、まさに天にも昇る気持ちでした！ “天仙液ありがとう”と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

実は、「天仙液１本か２本を２年間は服用したほうがよい」と、アドバイスを受けていましたが、１年過ぎた頃には寒い中でも仕事をバリバリ出来るようになり、自分はもう治ったと本人は思ってしまったのでしょう。天仙液を飲むことも忘れる日が続き、2019 年６月に「リンパ転移」を告げられました。

すぐに天仙液Ｓの服用を再開して、内視鏡手術で 1.3mm の腫瘍を切除し、抗がん剤治療を６日間して退院できました。そして、今年（2021 年）４月の定期検診を無事終えて、経過はよくほっと一安心しているところです。天仙液を飲みながら食生活にも気を付けて、元気で安心して暮らしていけたらと思います。

漢方ドットコムの活動について

私たちは「漢方で健康になる」お手伝いをしています。

納得できるがん治療の選択肢をお伝えしています。

私たちのもとには、高齢化社会を反映した病気やがんなどの難病について、「より多くの情報が欲しい」「より確かな情報がないか」などの意見やご相談が寄せられています。

特に近年、増加の一途をたどるがんに関しては、「納得できる治療法の選択肢」を求める声が多く、そこで漢方ドットコムでは、「標準治療＋１のがん治療」として、漢方がん治療という方法を提案しています。

漢方によるがん治療は、抗がん剤や放射線治療のような苦しむ副作用がなく、身体全体の免疫力を高め、自己治癒力を引き出して、ＱＯＬ（生活の質）を向上させながら、がんを改善していく方法だからです。

私たちは、このような漢方がん治療などの情報提供や相談に関して、医師や専門家などの協力、指導を得て、アドバイザーがお伝えしています。さらに講演会やセミナー、勉強会、交流会において、会員様同士の情報交換、交流の場として、共に活動しています。そして、「漢方で健康になる」お手伝いを通して、「健康ライフ」の向上に貢献することを使命として参りたいと思っております。

一般社団法人　漢方ドットコム

顧問中医師による「電話無料相談室」のお知らせ

中医学の指導者として活躍する今中健二先生が、あなたの悩み、相談にお答えします。

■お申込み・ご相談の受付窓口

一般社団法人漢方ドットコム（受付時間 10：00 ～ 18：00　平日のみ）

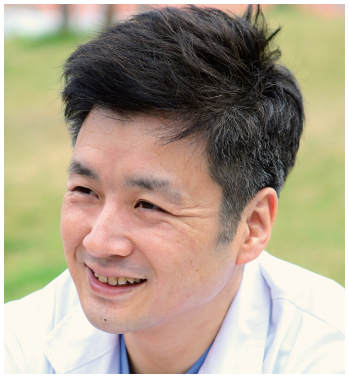
※事前に患者様の病状をお聞かせ頂きます。

※ご相談は完全予約制となります。

※ご相談時間は 30 分までとさせて頂きます。

※ご相談は漢方におけるがん治療の相談のみです。

0120-178-379



中医師・中国医学協会会長・中国医学Labo同仁広大院長・医師、医学生に中国医学の指導を行っている

会報誌『漢方ドットコム通信』　発行：一般社団法人　漢方ドットコム

〒108-0023　東京都港区芝浦 3-11-5　第三協栄ビル７Ｆ
フリーダイヤル　０１２０-１７８-３７９
ＴＥＬ：03-6459-4484　ＦＡＸ：03-6459-4661